

山岳遭難防止対策について

【平成30年4月20日「北海道山岳遭難防止対策協議会」総会 における主な内容から抜粋】

現状

道内における山岳遭難は年々増加しており、平成29年は過去最多となっている。

〔発生件数〕+34件(+17%) 〔遭難者数〕+49人(+23%)

特に「山菜採り」での遭難事案は全体の半数近くを占め、平成29年は大幅に増加。

〔発生件数〕+29件(+37%) 〔遭難者数〕+29件(+34%)

【山岳遭難の発生状況】

各年1～12月	登 山 (※)		山菜採り		山岳遭難計			
	発生件数	遭難者数	発生件数	遭難者数	発生件数	前年比	遭難者数	前年比
平成29年	123 (40)	156 (76)	108	115	231 (40)	+34 (+4)	271 (76)	+49 (+33)
平成28年	118 (36)	136 (43)	79	86	197 (36)	+22 (-9)	222 (43)	-13 (-13)
平成27年	100 (45)	151 (56)	75	84	175 (45)		235 (56)	

※「登山」の()内数字は、バックカントリースキーによる遭難で内数。

遭難事故防止に向けた取組

<山菜採り>

例年、遭難が多発する時期(5、6月)に重点的に啓発活動を展開する。

特に「ホイッスルの携行」を強く呼びかける。

啓発内容

- ・啓発リーフレットの作成・配布

配布先:市町村、防災関係機関、各地方遭対協、包括連携協定締結企業 など
窓口配架、山岳パトロール、各種研修会等における配布、ホームページ掲載 等

- ・広報媒体の活用

新聞、広報紙、自販機電光掲示板、ラジオ番組 他

- ・ホイッスルの普及

店舗等での取扱依頼

<登山>

年間を通し啓発活動を実施する。ホイッスルの携行もあわせて呼びかける。

啓発内容

- ・啓発リーフレット(登山者向け)の作成・配布

配布先:上記山菜採り遭難と同様 ※観光関係団体等へも配布

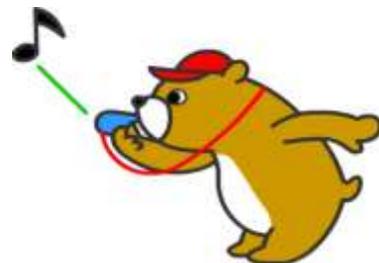
- ・広報媒体の活用

- ・ホイッスルの普及



山菜採り、準備不足と油断で命取り

山に入るときはホイッスルを忘れずに



山菜採りに行く前にチェックしましょう

- 家族に行き先地と帰宅時間を知らせましたか
- 天気予報は見ましたか
- 仲間と一緒に入山しましたか
- 体調が悪いときは、入山は止めましょう。
- 軽装で入山は危険！寒さ対策していますか
- 自分の位置を知らせる物は持ちましたか
(発煙筒、鏡、スマホの地図アプリ等)
- 雨具(目立つ色を着用)、食料、飲料水、携帯電話(バッテリーも)、ホイッスルは、持ちましたか



もし、道に迷ったら

- むやみに歩かず、風雨が避けられる場所で救助を待ちましょう。
- ホイッスルで大きな音を出したり、携帯電話のライトで周囲や捜索隊に自分の居場所を知らせましょう。

ヒグマに遭わないために

- ◇ヒグマの目撃情報をテレビやラジオなどで確認しましょう。
- ◇出没情報のある場所、出没を知らせる看板のある場所へは立ち入らない
- ◇野山には仲間と入り、一人にならないようにしましょう。
- ◇鈴を鳴らすなど、音で人の存在や接近をヒグマに知らせる。
- ◇早朝、夕方、悪天候などで薄暗いときは、野山に入らない
- ◇食べ物やゴミは、必ず持ち帰りましょう。

ダニ等による感染症に注意

- ◇山に入るときは、長袖、長ズボン、手袋等を着用し、肌の露出を避けましょう。
- ◇ダニ等に刺された後に体調を崩したときは、速やかに医療機関を受診しましょう。

北海道山岳遭難防止対策協議会

STOP



遭難事故



山菜採りによる
遭難事故が年々、
増えています!

！軽装は危険。死傷事故が毎年、発生しています。

思わぬ怪我や寒さで低体温症を発症するリスクが高まります。

！目先の収穫よりも安全第一で！

遭難者の多くは高齢者です。山菜採りに夢中になり過ぎると疲労や持病の悪化を招いたり、道に迷う危険性があります。

！捜索には、救助者の人件費、ヘリコプターの運航費など多額の費用がかかります。

市町村によっては、費用の一部をご本人やご家族に負担を求める場合があります。

！捜索には、消防職員、消防団、警察官、役場職員のほか多くの方が関わっていることを忘れないでください！

発生多発! 山岳遭難 あなたの安全対策は、本当に大丈夫?

登山の前にチェック

- 自分の体力、技能及び健康状態に合った登山ですか
- 日数合わせのために無理な行程を組んでいませんか
- 気象状況と山岳の気候特性を正しく理解しましたか
- 登山計画書は提出しましたか
- 非常時のことも想定した適切な装備をお持ちですか
- 連絡、通報のための通信手段はありますか

入山するときは ホイッスルを忘れずに

山の気候は変化が激しいので、最新の情報を確認しましょう。

気象庁のホームページ
<http://www.jma.go.jp/>



身を守るための計画と対応力

- ① エスケープルート（緊急時の逃げ道）を考える
- ② ラジオなどで常に気象状況を把握する
- ③ 装備を確認する
 - ・低体温症予防の防寒着
 - ・携帯電話・無線機など緊急時連絡手段
 - ・冬山ではビーコンなど雪崩に対する装備
- ④ 登山計画はパーティ全員で検討・理解する
- ⑤ 万一の遭難に備え山岳保険に加入する

登山計画書は必ず提出しましょう。

《提出先》

- 家庭、クラブ（山岳会）、職場、学校など
- 警察本部、警察署、交番、駐在所

《インターネットでも届出できます》



(公財)山岳ガイド協会
コンパス

北海道警察



火山に登る時は、
届出をしましょう。

万一、遭難した場合に登山計画書を提出していれば捜索活動がスムーズに行われます。

少しでも無理がある時は登山を中止しましょう。事故に遭わなければ、また、いつでも登れるのです。



北海道山岳遭難防止対策協議会

登山計画書はあなたの生命を守るザイルです。

近年、連続で山岳遭難が発生している山岳（平成27年～平成29年）

